

## 第9期サポーター会議（第8回）議事概要

### 開催日時

令和8年3月4日（水曜日）午後2時～午後4時00分

出席者（計10名・敬称略）

（サポーター8名）荒木・佐藤（純）・佐藤（奈）・鹿野・吉川・道下・森・山田

（事務局2名）布施・田中

主な議事と概要 ※詳細は下記「会議の内容」を参照

### 1. 災害からつながりを考えるワークショップ

- ・2018年北海道胆振東部地震等の経験を振り返り、災害発生時の不安なタイミングや困りごとを共有。
- ・架空の町の職員という設定で、理想的な災害対策についてグループワークを実施。

### 2. 理想の災害対策に関する提言（自助・共助・公助）

- ・自助：ライトや旗の携帯、食料・水の備蓄、簡易トイレの準備、事前訓練の実施。
- ・共助：町内会での発電機確保、近隣住民との情報交換や声掛け。
- ・公助：ソーラーパネルの設置、文字情報の充実、公共施設の水・電源の確保、防災用品の試用機会の提供。

### 3. 事務局からの事務連絡

- ・令和7年度の出席回数に応じた報酬（クオカード）の配布。
- ・次回のサポーター会議は5月開催を予定。

# 第9期サポーター会議（第8回）議事概要

## かいぎ ないよう 会議の内容

### さいがいじ けいけん ふ がえ 1 災害時の経験振り返り

- ・ **不安のピーク**：地震直後よりも「2日目の夜」が最も不安だったという意見が多く、1週間後に疲れが出るケースもあった。
- ・ **困りごと**：1日目の夜に集中。停電による暗闇、情報の不足、冷蔵庫の食品管理、水の確保、エレベーターの停止、信号機不通による交通の危険などが挙げられた。
- ・ **連絡手段**：地震直後に連絡が取れた人は多く、意外と初期の通信は維持されていた。

### す さいがいたいさく けんどう 2 住みやすいまちづくり（災害対策）の検討

かくう まち ぶたい  
架空の町を舞台に、3つのグループに分かれて「どの様な改善をしていくと、より良い環境になるか？」を議論し、提言をまとめた。

#### いえ なか ● 家の中グループ（食料・水・トイレ）

- **課題**：水の確保、トイレの使用不可、調理器具の不足。
- **理想の状態**：障がい者に必要なものが必要な分届く
- **提言**：
  - ・ **自助**：非常食の備蓄、自分に合った簡易トイレやライター等の準備
  - ・ **共助**：近隣住民による外出困難者への声掛け、情報伝達
  - ・ **公助**：防災意識の醸成（障がい者関連）、公共の井戸の整備、防災用品（コンロやトイレ）を事前に試せる機会の創出

#### いえ そと ● 家の外グループ（交通・電源）

- **課題**：停電時の信号不通、地下鉄停止、夜間の視認性低下
- **理想の状態**：電源が確保され、障がい者が安全に外出できる
- **提言**：
  - ・ **自助**：自分の位置を知らせるライトや旗を持つ

## 第9期サポーター会議（第8回）議事概要

- ・ **共助**：町内会やマンション単位で発電機を確保する
- ・ **公助**：天候時間等に左右されないソーラーパネルの設置、公共交通機関の電源確保

### ● 情報・通信グループ

- **課題**：知りたい情報（水・食料・道路状況）へ即座にアクセスできない
- **理想の状態**：文字情報でアクセスでき、障がい者が自分で情報収集できる
- **提言**：
  - ・ **自助**：公式LINEなど情報のアクセス先を事前に把握・保存する
  - ・ **共助**：隣人や知人と対面での情報交換を欠かさない
  - ・ **公助**：文字情報を中心とした情報収集環境の整備、周知の徹底

### 3 事務局からの事務連絡

- **報酬の配布**：令和7年度の会議出席回数に基づき、クオカードを配布。
- **次回日程**：令和8年5月開催予定。3月から4月にかけて日程調整を行う。